

式 辞

例年より1週間ほど早く桜は満開となり、週末の風雨に耐えながらも花吹雪を散らしておられます。これから桜は葉芽を膨らませ、来年また満開の花をつけるための準備を始めます。桜が他の花をつける樹木よりとび抜けて美しいのは葉がないうちに花をつけるからです。つまりその花による美しさは前年の葉によるエネルギーの集大成であるからです。

さて、本日は令和3年度長野県塩尻志学館高等学校の入学式の挙行にあたり、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、かくも厳かに執り行えますことはますことは、私たち教職員、在校生にとりましても大きな喜びでございます。心より御礼を申し上げます。

ただいま入学許可を致しました199名の入学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

先ほどの桜の話にありましたとおり、皆さんは中学校3年間で蓄えた力で見事高校入学という花を咲かせたわけです。

本日より、皆さんは本年二〇周年を迎える伝統ある塩尻志学館高等学校の生徒としてその第一歩を踏み出しました。

皆さんも承知しているとは思いますが、皆さんにとって高校は入学が目的ではありません。是非、この学び舎で大いに学び友と大いに語り充実した高校生活を送ってください。自分にとって志学館への進学が正解なのか迷うのではなく、志学館への進学を自分の人生にとって正解にすることが大切です。

そのことを、サポートしてくれるシステムと熱心に指導して下さる先生がこの学び舎には溢れております。特に、体験入学の時に配布した学校パンフレットに「普通じゃないから面白い」という文字が並んでいたのが印象に残っていると思います。

本校は今から20年前、長野県で最初の総合学科として生まれ変わった学校です。普通科にはない、キャリア教育を中心とした教育システムが整った高校であります。中学校での学びを引き継ぎ、皆さんの「社会での自分の役割の価値、その役割と自分の関係」を見出すキャリア形成を促す教育を推進しています。この学びを自分のものにすることができれば、「予測困難な社会の荒波」に、もみ消されぬ強くしなやかな力を養うことになるでしょう。繰り返します、志学館高校への進学が正解なのか否かは自分しだいです。自分で正解にするよう励んでください。そして3年後、大きな花を心に咲かすことを祈っております。

ご参列いただきました保護者の皆様、本日はお子様のご入学おめでとうございます。本日、喜びの日を迎えられましたのも皆様のお支えの賜物であると拝察するとともに、そのご労苦に敬意を表します。

本日より、お子様をお預かりし、全教職員一体となって「真理の探究」「自他の敬愛」「責任の完遂」の3つの教育理念の元、教育活動を実践して行く所存です。

高校は社会へ旅立つ最終段階の学校教育を行う場であります。生徒の自立のためには、必ずしも心地よい状況にならないこともあります。が、お子様の社会的自立のために、本校の指導方針にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

親という字は「立って木で見る」と書き、それが親としての在り方を示すものだと言われます。思春期真っ只中のお子さまが、様々な出来事に対峙した時に、主体的に問題解決できるようなお見守りとお支えいただくことが肝要と考えます。そして、ここぞという時には木から一目散に降りてお守りいただきますようお願い申し上げます。

結びに、このコロナ禍にあっても、塩尻志学館高等学校の学びが滞ることなく進められるとともに、ご出席された方が禍から免れますよう祈念申し上げて式辞いたします。

令和3年4月6日

長野県塩尻志学館高等学校 校長 宮川安司